



N.S.ニュース速報A

NSDAP/AO : PO Box 6414

Lincoln NE 68506 USA

www.nsdapao.org

#1163

29.06.2025 (136)

# 戦争中のヒトラー 何が起こったのか？

A.V.シャーフェンベルク著

## パート10

### 第9章

#### バトル・オブ・ブリテン

彼女（イングランド）は他の国とともに歩み、他の国とともに運ばれ、他の国とともに首を吊ることになる。彼女は下降の道を歩み始め、今、大きなジレンマに陥っている。

ヨーゼフ・ゲッベルス博士、日記、1945  
年2月28日

フランスが敗北したことで、ヨーロッパでの戦争は事実上終結した。これ以上の敵対行為は無意味であり、不当であった。イギリスは文字通り海に追いやられ、絶望的な状況に立たされた。軍事的価値のある唯一の同盟

国はアメリカだった。しかし、ルーズベルトやハリウッドのコーシャ映画製作者たちのあらゆる説得にもかかわらず、圧倒的多数のアメリカ国民と議員は介入に断固反対していた。いや、ヤンキーがすぐにやってくることはないだろう。そして、ウィリアム征服王による11世紀のイングランド征服の20世紀的な繰り返しは、間近に迫っているように思われた。しかし、アドルフ・ヒトラーはまったく別のことを考えていた。

1924年に『我が闘争』を執筆して以来、彼はイギリスと協定を結ぶ決意を固めていた。彼は、イギリス帝国は世界の安定に不可欠であり、その人種的血縁関係にあるアーリア人はドイツの自然な同盟国であると信じていた。彼が思い描いた新世界秩序は、ソビエト共産主義が崩壊した後のウクライナまでの大陸で、帝国が主導するヨーロッパ合衆国であった。それ以外の地域は、地中海沿岸のイタリアと極東の日本に分割され、アメリカ大陸全域はアメリカ、イギリスは洋上とアフリカ、インドの植民地支配国となる。

一種のパックス・アーリアナ（ヒトラーは日本人を「東洋のアーリア人」と呼んだ）というこのビジョンは、疑いなく正気であり---現実政治学の世界的縮図であり---望ましいものでさえあったが、これらの国々のほとんどを支配していたユダヤ人化した政府によって台無しにされた。自分たちの国際的な意図を持つ影響力のあるユダヤ人に影響されない異邦人のリーダーシップがなければ、そのような普遍的な平和は実現できなかつたし、実現することもできなかつた。信じられないことに、歴史上初めてユダヤ人を意識した大衆運動を起こしたアドルフ・ヒトラーは、ユダヤ人を過小評価していた。「イギリスと北米の優秀な血族は我々と一緒に行くだろう」と彼は無邪気に思い込んでいた。親友のルドルフ・ヘスが、対独協力のためのイギリスへの一方的なミッションが失敗に終わったことを理解した後、彼は妻にこう書き送った。“イギリス政府当局が、もはや自国をどこまでコントロールできていないのか、そのときは気づかなかつた”。

ヒトラーが求めたパックス・アーリアナは、オズワルド・モーズリー卿のイギリス・ファシスト連合がイギリス議会を占拠し、あるいはウィリアム・ダドリー・ペリーのシルバー軍団がアメリカ議会を占拠した場合にのみ可能であった。連合政府は、たとえそれが自国民にとって最善の利益であったとしても、ヒトラーと協力することはできなかつた。ルーズベルトのように、彼らは単にユダヤ人に投資しすぎていたか、チャーチルのように、彼ら自身が個人的にユダヤ人に恩義を感じていたのである。例え

ば、F.D.R.の公然たる共産主義者であったヘンリー・ウォレス副大統領の私的な日記には、1942年5月の閣議について書かれており、その中でアメリカ国務長官は「大英帝国の破壊が大統領の目的であり、まずはインドから始める」と記録している。

戦時中、イギリス国民が最もアメリカに助けを求めていた時期に表明されたF.D.R.の意図と、帝国を維持したいという総統の願望を比較してみよう。ルーズベルトは、チャーチルが美術品の贋作師として、無名で無事に死んだポスト印象派のフランス人画家（シャルル・モーレン）の絵を偽造して金を稼いでいたことを知っており、そのスキャンダルを利用してイギリス首相を威嚇した。これとは対照的に、ヒトラーは戦後、チャーチルに絵を描き続けさせると冗談を言ったことがある。総統が英独友好の夢をあきらめるまで、1930年代と第二次世界大戦の半分が過ぎ去った。

しかし、1940年の夏、大陸で勝利を収めた自軍を前に、彼はイギリスとの同盟とまではいかななくても、恒久的な和平を結ぶことを切望していた。「この紛争をこれ以上続けても仕方がない。「この無意味な戦争を続ければ、両国の女性や子供たちが耐え難い苦勞を強いられることになる。私は今、和平を懇願する殴られた男としてではなく、理性を求める戦勝国軍のリーダーとして発言しているのです」。イギリスの敗戦は、イギリスがその一部であるヨーロッパ合衆国という彼の構想にそぐわなかったからである。その代わり、戦場で屈辱を味わった敵国に対して、征服者としてはかつてないほど寛大な協力の申し出をしたのである。

総統はイギリスに対する軍事作戦を放棄することに加え、ドイツの都市ダンツィヒを除くすべての占領地から直ちに軍を撤退させ、イギリスがすべての敵に対して自由に使えるドイツ国防軍の25個師団を提供することを申し出た。イギリスがダンケルクで大失敗を喫した後、ゲルト・フォン・ルンゼット陸軍元帥に語ったところによると、「彼がイギリスに求めたのは、大陸におけるドイツの地位を認めることだった。彼は最後に、自分の目的は、イギリスがそれを受け入れることが名誉にかなうと考えるような条件で、イギリスと和平を結ぶことだと言った」（ウォルシュ、42）。

ヒトラーは、中立国スウェーデン国王、ローマ教皇ピウス12世、英国のエリザベス女王とともに、チャーチルに戦争終結を呼びかけた。しかし、一般市民はヒトラーの前代未聞の申し出についてほとんど何も知ることができなかった。それでも、フランスが陥落した後、新聞の世論調査では、イギリス国民の50%以上が指導者に戦争の継続を望んでいないことが明らか

かになった。彼らの平和支持の姿勢は、閣僚の半数にも事実上反映され、ヒトラーの申し出の受け入れを促した。チャーチルは、この寛大な提案のすべての詳細を、大衆にも自国の政府にも知られないようにすることに成功した。もしその詳細が知らされていたら、大多数がチャーチルに反対しただろう。

イギリスが戦争に突入した後、反ユダヤ主義が国中に広まった。彼らは、ホレ＝ベリシャとその仲間の部族によってもたらされた大惨事に憤慨したのだ。オンライン版ウィキペディアの彼の項目によると、「彼に強く反対していなかった人々でさえ、彼の人種をユーモラスに洒落た『ホレブ』というあだ名をつけた。当時、ベリシャはイギリスよりもユダヤ人のことを心配していると広く受け入れられていた。その結果、彼はユダヤ人を救うためにイギリスがドイツと戦うことを望んだ。

第二次世界大戦の初期、あるユダヤ人排斥の歌が軍人の間で大流行した。よく知られた宗教的行進曲「進め、キリスト教の兵士たち」に合わせて歌われたその不遜な歌詞は、紛争に対する英国の軽蔑を表現しているだけでなく、政治的洞察力を示していた：

"進め、徴兵軍！恐れることはない。

イスラエル・ホレ＝ベリシャが後方から指揮を執る。

モンティ・バートン（イングランドの衣料品業界を支配したユダヤ人）の衣服、

イングランドの製パン業界を牛耳っていたエイブラハム・ライオンズのパイを食べた、

イディッシュ語征服のために戦い、英国人は死ぬ。

前へ、徴兵された軍隊よ、戦争へと行進するのだ！

以前のように、ユダヤのために戦い、死ぬ。

ポーランドのために死ぬのだ。

あなたの恩人である国際銀行へ。

ユダヤの星の下でドイツ軍を再び弾圧せよ。

進め、キリスト教の兵士たちよ！

羊の群れのように屠殺に駆り出される

あなた方を眠りに誘う嘘のプロパガンダによって。

だから、海外のイスラエルのために、あなたは戦い、死ななければならない

マーカス・スペンスとローエンシュタイン（ユダヤ系新聞社主）が私たちの時間が有益になるかもしれない。  
ポーランドに前進し、100万人が倒れるだろう  
ユダの恐怖支配がわれわれを虜にするように。

チャーチルが心配していたのは、気の利いた歌だけではない。彼はヒトラーの和平計画が公に漏れるのを防ぐのに苦勞していた。1940年7月20日、英国貴族の一人であるローティアン卿が、ドイツ側に直接、和平条件のコピーを求めた。チャーチルは盗聴を通じてローティアン卿の問い合わせを知り、直ちに帝国当局との一切の連絡を絶つよう命じた。その後、チャーチルは英国大使に、ヒトラーの提案をロンドン政府に伝え、理解してもらおうと必死になっていたベルリン代表との対話を中止するよう伝えた。首相としての権限を通じて、総統の寛大な申し出の程度を知っていたのはチャーチルとその側近だけであり、彼らはその寛大さを公にしようとはしなかった。

英国大使にドイツ軍との一切の接触を控えるよう命じたその日、チャーチルは爆撃機部隊のチャールズ・ポートル司令官を呼び、ベルリンへの大規模なテロ空襲をいつまでに開始できるかを尋ねた。ポートルは、ドイツ空軍はこれまで軍事目標に限定して攻撃を続けてきたため、イギリス空軍は合法的に敵の首都を爆撃することはできないと答えた。チャーチルは会談の直前、アメリカ大使のジョセフ・P・ケネディに、国民と政府の間で盛り上がりを見せている和平運動を頓挫させる手段として、ヒトラーにイギリスの民間都市への爆撃を開始させたいと告げた。

1940年8月24日、ハインケルHE-111のパイロットが目標をオーバーシュートして2、3発の爆弾を投下し、ロンドン東部市街地のすぐ内側で爆発したのだ。死者や負傷者は出ず、物的損害も極めて軽微だった。ドイツ空軍はこの誤爆を国際赤十字に連絡し、中立国のスイスを経由して英国当局に伝えた。翌日、チャーチルは自国政府から解任され、刑事訴追されるに値することをした。議会、内閣、爆撃機部隊にさえ通告することなく、彼は100機のウェリントン中型爆撃機とホイットニー中型爆撃機にベルリン攻撃を命じた。侵入者の多くは撃墜されたが、数人の非戦闘員の男性、女性、子供を殺すまでには至らなかった。軍事施設に被害はなかった。ヒトラーはドイツ空軍に報復を禁じた。

その後10日間、空軍は7回の空襲で帝国の首都に戻ったが、住宅地が常

に狙われた点ではすべて同じだった。ドイツの民間人の死者数は増え始めた。それでも総統は反撃を控え、外交官たちは必死にイギリス側と何らかの平和的解決や基本的合意に達しようと努力した。しかし、彼らは首相から、理性に訴えるものはすべて耳を塞ぐように命じられていた。罪のない一般市民が殺害されたことに対する正義を求めるドイツ国民からの政治的圧力が高まる中、ヒトラーはしぶしぶ最初のドイツ空軍によるロンドン空襲を命じた。

それは100機ほどの老朽化した中型爆撃機による出撃ではなく、最新鋭のユンカース88、ドルニエ17、ハインケル111による史上初の集団空襲だった。イギリスの首都は火の海になった。チャーチルは大喜びし、イギリス全土と外の世界のニュース映画は、何百万人もの映画ファンに向けて、山積みになった民間人の死骸をドラマチックに伝えた。チャーチルは、1970年代の北ベトナムへのいわゆる「絨毯爆撃」、1999年のセルビアの非武装旅客列車へのアメリカ軍の空爆など、民間人への爆撃という近代的な残虐行為を引き起こした。

当時ロンドン市民がそう呼んでいた“ブリッツ”は、イギリスの民主主義にすでに亀裂が広がっていたことを明らかにした。イギリスの歴史家、マイケル・ウォルシュによれば、「情報大臣アルフレッド・ダフ・クーパーは息子のジュリアスをカナダに送ったが、誰にも知らせなかった。余裕のある親たちは、家族をアメリカや英連邦に送り出した……」。1940年の6月、7月、8月には、6,000人以上の子供たちが富裕層の国外脱出に参加した」(42)。イギリスの宣伝部長として、クーパーは、イギリス国民が、自分たちの絶滅を企んでいるとされる残酷な敵に対して、共通の危機を共有しているという神話の責任者であった。

チャーチルの非戦闘員に対するテロ攻撃は、ヒトラーに残された方法はニンジンと棒による外交しかないと確信させた。空爆をすれば、イギリスは正気を取り戻さないまでも、会議のテーブルに着くかもしれない。ドイツ国防軍が「シーリオン作戦」（イギリス侵攻作戦）を計画していたにもかかわらず、ヒトラーは常にイギリス侵攻を避けたいと願っていた。今でも、彼は将来の英独和解への希望を抱いており、強制占領はそのような未来を永遠に不可能にするものだった。

夏の終わりから、ゲーリング帝国首相は対英作戦で明らかに不利な立場に立たされた。歴史家のグレッグ・ゲーベルによれば、ドイツ爆撃機の電子航法システムのコードネームであるクニックバイン（「曲がった足」）

は、「大きく離れた2カ所から細い無線ビームを発信していた。この2本のビームが目標都市上空で交差することで、爆撃の目印となる.....」。ドイツ空軍が夜間空襲に転じた1940年9月までに、ニックバインへの対抗策は洗練されていた。イギリスは、モールス信号のパターンを注入することでニックバインの信号を劣化させる、より強力な対ニックバイン送信機を運用していた。クニックバインは無力化されていた。方向がわからず、ドイツ軍の爆撃機は暗闇の中で迷子になることもあった。11月19日、ドイツ空軍はバーミンガムを攻撃した。英国のジャマーは周波数を合わせており、ドイツの爆撃精度は低かった。ドイツ空軍は12月、ジャマーに守られていないイギリスの都市に対して成功を収めた。しかし、1941年1月までに、イギリスはすべての穴を塞いだ（2、4、5）。

ドイツ軍の爆撃機の有効性は航法システムの妨害によって低下していたが、スーパーマリン・スピットファイアは少なくともメッサーシュミットME-109と同等であり、その戦闘時間は燃料の考慮によって制限されていた。ドイツ空軍のパイロットはそれほど幸運ではなく、イギリス上空でベイルアウトしたパイロットが戻ってくることはなかった。とはいえ、イギリス空軍があまりにも多くの敵機を撃破したため、イギリスが差し迫った侵攻から救われたというのは事実ではない。航空作戦が開始された8月8日から、ヒトラーが航空作戦に懸念を表明した9月1日まで、ドイツ軍機467機が失われ、イギリス軍機1,115機が破壊された。ドイツ空軍に有利な損失バランスが続いていたにもかかわらず、ヒトラーは2週間後の海軍会議で、「シーリオン作戦の実行を正当化するのに必要な航空覇権の程度にはまだ達していない」と述べた。

それからの数ヶ月間、ドイツはイギリスとの和解が成立するかもしれないという希望と、イギリスを会議のテーブルにつかせる爆撃機の間で揺れ動いた。彼は、ドイツが占領すれば友好関係が永遠に損なわれるであろう、自然な同盟国を侵略するという見通しに反発した。シーリオン作戦が中止されたのは、十分な制空権がなかったからというよりも、ヒトラーがイギリスを味方につけたいという希望を抱いていたからである。しかし、それまでの数週間、イギリスは甚大な被害を受けた。インフラストラクチャーは破壊され、工場は爆破され、イギリス空軍は数百人の生き残りのパイロットと使用可能な航空機を残すのみとなった。完全な敗北は免れたように見えたが、英国は飢餓配給と孤立化に直面した。

総統はプレッシャーにさらされていた。総統は、軍備増強に躍起になっていたソ連との不可侵条約が期限切れになりつつあることを自覚していた。スターリンが協定の代償として要求したのは、バルト三国への勢力範囲の拡大だった。ロシアの中立は、ポーランド敗戦後の西側連合国との対決に不可欠だった。ヒトラーがラトビア、リトアニア、エストニアの住民のためにできることは、ソビエトが彼らを虐待することを制限する議定書を挿入することだけであった。もちろんスターリンは、1940年にバルト三国を占領した際、この協定を全く無視し、赤軍による占領と同じような略奪、集団逮捕、処刑を行った。

11月30日、ソビエトがフィンランドを攻撃したときも、ヒトラーの手には負えなかった。ソ連のフィンランド侵攻によって、ヒトラーは政治的にも軍事的にも非常に不利な立場に追い込まれた。ロンドンとパリの戦略家たちは、ノルウェーとスウェーデンの占領を、鉄鉱石資源を持つノルウェーと海軍基地を持つスウェーデンの優先順位のトップに据えた。そのため、イギリスとフランスはフィンランドに物資を援助し、スカンジナビアに広がる反ドイツ感情を利用した。スカンジナビアでは、大日本帝国はロシアの侵略を幫助しているとみなされ、連合国の宣伝担当者は「ナチスのインチキ反共主義」を大々的に宣伝した。総統は、自国民の支持が損なわれることはない信じながら、苦々しい沈黙に耐えていた。彼らはフィンランド人とバルト人に深い同情心を抱いていたにもかかわらず、ヨーロッパの東の端で強欲なソ連の巨人が牙をむいている間、飄々とした態度を保たなければならなかった。ヒトラーはまさに悪魔と盟約を結んだのであり、勝利のための時間を稼ぐ代償として、同胞である北欧諸国民がひどい犠牲を払うことになったのだ。

スターリンのフィンランド攻略は、戦わずして彼の手に落ちたラトビア、リトアニア、エストニアの難なく占領に劣らず確実なようだった。300,000人のソ連軍と800機の戦闘機が、120,000人のフィンランド軍と対峙した。カレリア地峡を通過して侵攻してきた強大な第7赤軍は、マンネルヘイム線で足止めを食らった。マンネルヘイム線は、フィンランドの総司令官カール・グスタフ・マンネルヘイムにちなんで名付けられた、見事にカモフラージュされたピルボックスと対戦車防御の千鳥格子状の一連の狡猾に考案された線であった。ピンチに陥った赤軍を救援するために駆けつけた第8軍の第75師団と第139師団は、ラドガ湖の対岸でフィンランドのスキー大隊に待ち伏せされ、防寒仕様のスオミ9ミリ機関銃を撃ち込まれ

た。劣悪なロシアの火器は氷点下の気温で凍りつき、5,000人以上の共産主義者の死者を出す一因となった。一方、ソ連軍の第163師団は、フィンランド中央部に進軍していた第9軍から切り離され、その後、全滅し、第44師団も退却を余儀なくされた。

フィンランド空軍は、イタリア、オランダ、フランス、イギリスからの老朽化した双発機を中心に、他国から寄せ集めた寄せ集めだった。これらの旧式機と8対1の劣勢にもかかわらず、フィンランドのパイロットたちはソ連の航空艦隊に挑み、戦線上空での成功が地上での勝利に匹敵するまでになった。赤軍が侵攻して1ヵ月も経たないうちに、フィンランド軍の10倍以上にあたる27,500人が戦死した。数的にも技術的にも不利な犠牲者の手によるスターリンの屈辱は、政治的には正しく、軍事的には無能な将校に酷使された自軍の士気と訓練の低さに一因があった。彼らは文字通り、やる気満々のフィンランド軍に劣勢に立たされ、その英雄的な防衛戦は、ソ連に対する攻撃を準備していたヒトラーを勇気づけた。

ドイツが春に生死をかけた対決に備えるには、イギリスの無力化が不可欠だった。彼は、海洋国家であるイギリスとの戦いは、ドイツ海軍にしか任せられないことを知っていた。従って、彼は潜水艦の増産を命じた。イギリスは、外部からのあらゆる支援を遮断することで効果的に封じ込めることができる。こうして総統は、帝国の水兵と艦船に信頼を置くようになり、東方に目を向けた。しかし、そこに着手する前に、別の大陸が総統の注意を引いた。



**NS KAMPFRUF**  
KAMPFSPRUCH DER NATIONALSOZIALISTISCHEN DEUTSCHEN ARBEITERPARTEI AUSLANDS- UND AUFBAUORGANISATION

September 1944      September 1973      26. April 2017 (100)

**Der Kampf geht weiter !**

Seitlang haben sich die Kapitalisten der Weltmacht am 8. Mai 1945 an der nationalsozialistischen Bewegung nicht ab zu geben in der Nachkriegszeit. Und zwar nicht nur in Deutschland, sondern auf globaler Ebene!

Kolonialisierung, Unterdrückung, Verdrängung und Verdrängung haben nicht aufgehört, das kann der gesunde Menschenverstand nicht verleugern. Adolf Hitler ist zurück!

Alle Nationalsozialisten sind bereit, alle Verdrängten und Kolonialopfer zu unterstützen. Sie sind bereit, den Kampf um die Erhaltung unserer weißen Völker zu führen. Die Bewegung ist eine soziale Bewegung, aber die Größe des biologischen Volkstums ist heute noch nicht genug, es ist die Vorgeschichte!

Der nationalsozialistische Gegenstand ist also nicht, den Volkstümern gegen alle weißen Völker (?) zu begegnen. Seine Mittel sind Unterdrückung, Unterdrückung und Kolonialismus.

Ob "legal" oder "illegal", ob im Wahlkampf oder im Straßenkampf, ob im Propagandakrieg, bewacht oder auf einem Schlachtfeld, andere Art jeder Nationalsozialisten ist seine Pflicht!

Hail Hitler!  
Gottfried Lauth



**TROTZ VERBOT NICHT TOT!**



N.S.ニュース速報A  
[www.nsdapao.org](http://www.nsdapao.org)  
#1005      19.06.2022 (133)

NSDAP/AO: PO Box 6414 - Lincoln NE 68506 - USA

フロントレポート  
モリーへのインタビュー

第3部

NSK: 現在のプロジェクトは、明らかに哲学的で、アートに関連したものです。

このような話題が政治に与える影響について、あなたの考えをお聞かせください。

モリーです。フォトギャラリーの更新は続いています。主に Adolf Hitler and the Army of Mankind ([www.mourningtheancient.com/truth.htm](http://www.mourningtheancient.com/truth.htm))に集中して取り扱っています。現在21ページですが、まだまだやるべきことがたくさんあります。第二次世界大戦の物語は、まさに情報の堆積層です。1つのことについて情報を提供しても、さらにはつぼみと調べたいことが出てくる。まるで、埋も



the **NEW ORDER**

Number 179 (177)      Founded 1973      April 26, 2022 (100)

**The Fight Goes On !**

Seventy years after the capitulation of the Wehrmacht on May 8, 1945, the postwar National Socialist movement is stronger than ever not only in Germany, but throughout Europe.

Decades of mass murder, expulsion, persecution, and defilement have not sufficed to destroy the seed of the brilliant idea of our much loved Führer Adolf Hitler.

All National Socialists and other racially-aware Europeans and racial kinemen fight side by side for the preservation of the White folk.

The movement has indeed become stronger, but the danger of biological folk death is also much greater today than in the past.

The desperate enemy is in the process of committing genocide against all White folk. His means are non-White immigration, culture distortion, and re-education.

Whether "legal" or "illegal", whether in election battle or street battle, whether armed with propaganda material or on a battlefield of a different kind every National Socialist must do his duty!

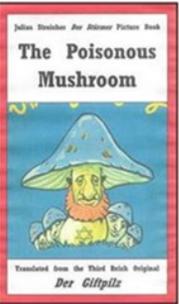
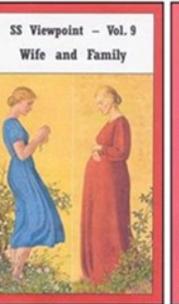
Hail Hitler!  
Gottfried Lauth



**TROTZ VERBOT NICHT TOT!**

# NSDAP/AOは世界最大です 国家社会主義プロパガンダサプライヤー！

多くの言語での印刷物およびオンライン定期刊行物  
多くの言語の何百冊もの本  
多くの言語の何百ものウェブサイト

<p>SS Defender against Bolshevism by Reichführer SS Heinrich Himmler</p>  <p>Translated from the SS Original</p>	<p>Julius Streicher der Führer Führer Book</p> <p>The Poisonous Mushroom</p>  <p>Translated from the Third Reich Original Der Giftpilz</p>	<p>Reinhold Bollmann</p> <p>Hitler in Italy</p>  <p>English / German    Deutsch / English</p>	<p>SS Viewpoint - Vol. 9 Wife and Family</p> 	<p>Theodor Fritsch</p> <p>The Sins of High Finance</p> 	<p>Luftwaffe War Art Die Luftwaffe im Bild</p>  <p>English - German / Deutsch - English</p>
---	---	--	---	--	--

**BOOKS - Translated from the Third Reich Originals!**  
[www.third-reich-books.com](http://www.third-reich-books.com)



**NSDAP/AO**  
**Fight Back!**



[nsdapao.org](http://nsdapao.org)  
Contact us to  
find out how  
YOU can help!